

◎冷戦の終結と東ヨーロッパ

b.「ベルリンの壁崩壊」—冷戦構造の崩壊とソ連の解体(2)

⑤1988新ベオグラート宣言=[1 制限主権]論を放棄=他の社会主義国の行動の自由を承認
→[2 1989]年 [3 東ヨーロッパ]諸国などでの改革、民主化→東側陣営の崩壊へ

ハンガリー・ポーランド・ブルガリア・チェコスロバキアで民衆運動を背景に[4 無血革命]実現
→共産党支配崩壊=[5 自由選挙]による議会制民主主義・[6 市場経済]実現
→解散あるいは社会民主主義政党へ改編

東ドイツ=ホネカー書記長辞職→[7 ベルリンの壁]崩壊
→1990西ドイツに吸収される([8 統一ドイツ]実現)

[9 ルーマニア]…チャウシェスク夫妻の処刑

⑥[10 コメコン]・[11 ワルシャワ]条約機構の解消→[12 東欧社会主義圏]の消滅

ソ連書記長の[13 ゴルバチョフ]は1988年[14 制限主権]論を放棄を言明、これをうけ [15 1989]年東ヨーロッパでは民主化運動が空前の高まりを見せ、社会主義体制は次々と崩壊、[16 ルーマニア]では独裁的指導者であったチャウシェスクが殺害された。ドイツでも東西陣営の対立の象徴であった[17 ベルリンの壁]が撤去され、翌年には西ドイツに東ドイツが吸収される形でドイツ統一が実現した。また東側の軍事同盟[18 ワルシャワ条約機構]や経済協力体制[19 コメコン]も解消され、東側社会主義陣営は崩壊した。

⑦ソ連国内の混乱の拡大

1)[20 市場]経済導入によるインフレーション、経済混乱と [21 貧富の差]の拡大

2)言論の自由の承認→いっそうの民主化要求や[22 ナショナリズム]台頭=バルト3国の独立など
→民主化路線への反発=旧体制への復帰を求める声の高まり

⑧1991 8 保守派の[23 クーデタ]失敗→ウクライナ・アゼルバイジャンなど各共和国の連邦離脱
→[24 ソ連共産]党の解体

⑨1991年12月ロシア連邦([25 エリツィン]大統領)ら独立国家共同体結成([26 ソ連]の消滅)
→各共和国の自立性強く、存在感はうすい

⑩ロシア→エリツィンのもと混乱つづく→市場経済への移行の遅れ・[27 チェチェン]紛争など
→2000年[28 プーチン]大統領当選…[29 石油]などの資源を背景に大国化へ

他方、国内政策は困難を極めていた。これまでの中央指令型計画経済から[30 市場]経済への移行は経済混乱と貧富の格差を生みだし、言論の自由の拡大は[31 ナショナリズム]の台頭を生みだし、ソ連内部の各共和国での自治拡大・離脱要求へと発展していった。こうした事態に危機感を持った保守派は1991年8月反ゴルバチョフのクーデターを起こそうとしたが失敗、逆に各共和国の離脱がすすみ[32 ソ連共産]党も解散、1992年12月[33 エリツィン]大統領率いるロシア連邦を中心にして独立国家共同体が結成され[34 ソビエト連邦]は消滅した。

◎ヨーロッパの統合

第2次大戦で大きな被害を受けた西ヨーロッパは、その後も[35 冷戦]の最前線としての緊張状態となった。また植民地解放運動の高まりの中、植民地支配の復活をめざした[36 フランス]やオランダは手痛い敗北を喫した。経済混乱はアメリカの[37 マーシャル=プラン]などの経済支援で収まったが、それは世界の中心が[38 米ソ]両国に移ったことをも示していた。こうしたなかで、西ヨーロッパでは各国が協力体制を強めることで米ソと並ぶ第三極を形成するとともに、再び西欧諸国が戦火を交えることを防ごうという考え方が浮上してきた。

①第2次大戦後の西ヨーロッパ=地盤沈下すすむ、東欧の社会主義化で冷戦の最前線に、経済混乱
→アメリカの支援([39 マーシャル=プラン]など)で驚異の経済復興、アメリカの従属的存在に

②フランス

1)大戦後=[40 第四共和]政成立→不安定な政権・共産党の勢力拡大など

植民地回復戦争(スエズ戦争)に失敗、アルジェリア独立戦争に苦戦

2)1958 アルジェリアでの軍部の反乱をきっかけに大戦の英雄[41 ドゴール]が政権を奪取

→[42 第五共和]政成立=巨大な大統領権限を認める

<ド=ゴールの外交>

フランスの[43 主体性]を強調、米ソと並ぶ「[44 第三極]」形成をめざす。

→アメリカにあえて「逆らう」方向をすすめる

・1962 アルジェリア独立を承認→フランスにおける懸案の消滅

・1960 [45 核兵器]開発を進める→米ソの核独占を牽制(部分的核実験停止条約に不参加)

・1964 [46 中国]承認

・1966 [47 NATO]の軍事機構からの脱退

→「第三極」としての[48 ヨーロッパ統合]をめざす=西独、アデナウアー首相と会見和解に

西ヨーロッパの統合は西独・仏などの国々の工業原料の石炭・鉄鋼の相互利用をめざした[49 ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体](ECSC)が1951年、西独・仏・伊・ベネルクス3国の6カ国で発足したのに始まる。つづいて1958年加盟国間の相互関税引き下げなどをすすめる[50 ヨーロッパ経済共同体](EEC)が設立され、1958年発足した[51 ヨーロッパ原子力共同体](EURATOM)とあわせて3つの機関が1967年統合したものが[52 ヨーロッパ共同体]([53 EC])である。なお、これに参加できなかったイギリスなどは[54 ヨーロッパ自由貿易連合](EFTA)を結成し対抗したが、大きな力とはならなかった。

ヨーロッパ共同体は、1973年には[55 イギリス]など3国 1981年にはギリシア 1986年には民主主義を回復したスペイン・ポルトガルなどを加えいっそうの発展を遂げた。さらに、共通の外交政策と安全保障政策をすすめるという内容の[56 マーストリヒト]条約を1992年に締結、1993ECは[57 ヨーロッパ連合](EU)へと発展した。1995年にはスウェーデンなど3国も加盟、1999年には共通通貨[58 ユーロ]の使用もはじまった。そして2004年には社会主義体制を脱却した東ヨーロッパのポーランド・ハンガリー・チェコなど10カ国も加盟し、全ヨーロッパ的規模での統合をすすめている。